

社会教育委員会議だより

題 字
村岡 紫石

発行
太田市教育委員会
太田市社会教育
委員会議
お問い合わせ先
太田市生涯学習課
TEL 0276-22-3442



かながわキンタロウ

方策と課題

障害がある人も無い人も

みんなの居場所がある社会へ

・障害を理由に「あきらめる」がないようにする
 ・企画の最初からみんな一緒に活動することが大事だとお話しになりました。

シンポジウムでは、現在、誰にでも居場所がある地域づくり活動をしている3人のシンポジストが、学びの場へのアクリ

セスの問題
 ・みんなが共に学ぶ場を新たに作る方法
 ・取り組みなければならぬ課題
 などについて紹介されました。

2日目は、参加者が5つの分科会に分かれて、与えられたテーマに沿って事例発表と意見交換を行いました。(大川)

伝統を未来へつなぐ

夏まつり

コバルトブルーに晴れ渡った令和7年9月6日(土)、58回目の藪塚まつりが開催されました。

今回は、地域の文化を未来につなげたいという実行委員長の熱い思いから、八木節や子どもみこしなどの伝統的な出し物のほかに、高校生グループのラップや住民グループのバンド演奏など、夏祭りにはなじみがなかった演目も取り入れて新しい風を吹かせました。

昨年同様、地震体験車、ミニ消防車の試乗、ミニドローンの操縦、その他の体験コーナーや子ども



八木節



迫力の中華獅子舞(横浜中華学院) 歓迎セレモニー

令和7年11月20日(木)・21日(金)、横浜で開かれた第56回関東甲信越静社会教育研究大会に参加してきました。

関東甲信越と静岡を加えた11都県の社会教育委員が一堂に会して毎年行っているもので、今回は「障害がある人も無い人も、全ての人の居場所がある社会をつくるために社会教育に何ができるか」について学び考える会でした。

初日には記念講演とシンポジウムがあり、記念講演では、NPO法人スローレーベル芸術監督栗栖良依さんが、全ての人の居場所がある社会をつくるためには、

・障害のある人を起す点に企画する
 ・障害の有無を越えて一緒に活動する機会を作る

その力を育てる大切な機会です。社会教育が果たす役割は、ますます重要になっており、子どもも大人も学び合う「共生(きょうういく)」の場づくりが求められています。

このような中、社会教育委員会では時代に合わせた教育の在り方について、多角的な視点から協議を行い、その改善に向けた取り組みを

展にお力添えいただき、皆さまようお願い申し上げます。

結びになりますが、子どもたちは地域の希望であり、社会の宝です。太田市では、これまで多くの方々

・みんなが共に学ぶ場を新たに作る方法
 ・取り組みなければならぬ課題
 などについて紹介されました。

2日目は、参加者が5つの分科会に分かれて、与えられたテーマに沿って事例発表と意見交換を行いました。(大川)

いとこの実行委員長の熱い思いから、八木節や子どもみこしなどの伝統的な出し物のほかに、高校生グループのラップや住民グループのバンド演奏など、夏祭りにはなじみがなかった演目も取り入れて新しい風を吹かせました。

昨年同様、地震体験車、ミニ消防車の試乗、ミニドローンの操縦、その他の体験コーナーや子ども

縁日(くじ引き・射的・輪投げ・スパーボールすくいなど)も設置。子どもから大人まで誰でも遊べるような祭りを企画。家族連れ、外国人、中学生や高校生など、約7200人が来場しました。

芝生の広場では、いくつものグループがレジャーシートを敷き食べ物や飲み物を持ち込んで、自分たちの祭りを楽しんでいました。(大川)



太田市教育委員会 教育長 江原 孝育

発行に寄せて

社会教育委員会議だより第10号の発行に寄せて一言お祝いのご挨拶を申し上げます。

令和7年5月16日付で太田市教育委員会教育長に就任いたしました江原孝育です。未来を担う子どもたちが笑顔で健康に成長できるように、目標として示されています。

この「生きる力」とは、知識や技能を確実に身につけることに加え、自ら考え、判断し、行動する力、

必要な「生きる力」を育むことが基本の目標として示されています。

そして他者と協働しながらよりよい社会を築こうとする態度を育てることを意味しています。

学校教育だけでなく、地域での体験活動や人とのつながり

社会教育委員の皆さまには、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後とも、温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆さまと力を合わせ、学ぶ意欲を支える環境づくりに取り組んでまいります。

今後とも、温かいご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

アコーディオン演奏

さて現行の学習指導要領では、子どもたちがこれからの社会を生き抜くために、

学校教育だけでなく、地域での体験活動や人とのつながり

学校教育だけでなく、地域での体験活動や人とのつながり

学校教育だけでなく、地域での体験活動や人とのつながり



アコーディオン演奏

ウェルビーイング(Wellbeing)とは何か

太田市立城東中学校 校長 茂木 良文



しあわせの4つの因子

私たちがよく耳にするウェル・ビーイング(Wellbeing)とは、実際どんな意味なのか? そんな疑問を少し整理できたらと思ひペンを取りました。

ウェル(Well)というの、「良い状態」「良い、ビーイング(being)は、「そうであること」を表します。つまり、「良い状態にあること」。これが『ウェルビーイング(Wellbeing)』なのです。何が良い状態であるのかというと、「からだ」と「心」と「社会」です。

いわばこれは、健康と幸せと福祉を包み込む概念なのです。我が国、日本では、その中でも「幸せな状態」という意味で使われることが多いのですが、世界的には健康で幸せで、福祉の行き届いた社会を作ること、これら全体を「ウェルビーイング!」と捉えています。

日本におけるウェルビーイング研究の第一人者である武蔵野大学の前野隆司教授は、ウェルビーイングを因子分析という方法で明らかにしました。これまで多

くの心理学者が、「どういふ人が幸せか」という研究を前野教授が因子という形でまとめてみたところ、「幸せ」は、4つの因子に分類できることが分かりました。分かりやすく解説すると、以下のようになります。

- ① 『やってみよう因子』 やりがいとか、主体性。自分で『やるぞ!』とやる気のある人は幸せである。
- ② 『ありがとう因子』 感謝したり、社会とつながりあって、思いやりがあったり、利他的で人のために何か役に立ちたいな
- ③ 『なんとかなる因子』 前向きで、楽観的で、「なんとかなるよ!」って思うこと(思えること)。これには自己受容と、自分のこと
- ④ 『ありのまま因子』 人と自分を比べ過ぎるのではなく、自分の道を行く! というか、個性を生かして自分らしく生きる。そんな人は幸せである。



る。この4つの因子を満たしていると『幸せ!』と感じることができそうです。なんとなく納得できますね。逆に、どれかを満たさないと少

し幸福度が下がり、4つとも低い人というのは幸福度が著しく低い傾向にあるといえます。ですから幸せに生きるためにはこの4つを日々の生活の中で意識して、

全部を満たすようにすると良いのではないのでしょうか。どれか一つの因子を満たすのではなく、バランス良く因子を満たすことが、ウェルビーイングの実現

につながるのであります。誰もが幸福を感じることができるといえる社会(ウェルビーイングの実現)を皆で目指していきけるといいですね。

歩けないとは思ってもみなかった!

体験することの大事さ身に沁みる

令和7年10月11日 (土)、藪塚東部・西部地区自主防災協議会が主催する「防災フェス」が行われました。地元消防団と消防署が連携して行った、救命体験、煙体験をはじめ、消火や防災のための様々な体験と、子育て連による簡易トイレや段ボールベッドの組み立て体験、郵便局長による「防災ゆつストレージ(説明は最後)」の紹介などがありました。



煙体験の(テント)の入り口で、団員の方が、「体験してみませんか」と、煙が充満して視界が悪いテントの中を見せながら、歩き方を説明してくれました。「簡単だ!」

軽い気持ちでテントの中に入りましたが、次の瞬間、歩いていない

「ただ白い煙があっただけで熱くも怖くもなかったのに立ちすくんでしまった。もし本当の火事だったら、黒い煙や燃え盛る炎、刺激臭……。ずっと恐ろしい状況になるかもしれない。避難できるだろうか?」

「そうだ! 頭を下げて腰をかかめ頭を下げてよく見ると、うっすらと周りが見えるようになってきた。また歩き出すことができました。」

「ただ白い煙があっただけで熱くも怖くもなかったのに立ちすくんでしまった。もし本当の火事だったら、黒い煙や燃え盛る炎、刺激臭……。ずっと恐ろしい状況になるかもしれない。避難できるだろうか?」

「ただ白い煙があっただけで熱くも怖くもなかったのに立ちすくんでしまった。もし本当の火事だったら、黒い煙や燃え盛る炎、刺激臭……。ずっと恐ろしい状況になるかもしれない。避難できるだろうか?」

「ただ白い煙があっただけで熱くも怖くもなかったのに立ちすくんでしまった。もし本当の火事だったら、黒い煙や燃え盛る炎、刺激臭……。ずっと恐ろしい状況になるかもしれない。避難できるだろうか?」

編集後記



社会教育研究大会では、元気な方々が多く見かけられた。社会教育は年齢に関係なくいつからでも始められ、やりたいうことを自ら選ぶことができ、知る喜びやものづくりからも楽しみを得られる。周りにいる全ての人からやる気を引き出してくれたり、時には頼ってくれたりする。人として健康で幸せな状態にしてもらえる。まさにウェルビーイングそのものであり、人は一生勉強なのだ改めて思われる。

生まれてすぐに家庭教育が始まり、その後学校で基礎教育を学び社会への進路を決め自立する。人生百年時代を実現可能にし生き抜くためにも、若いころからの学び、多くの人との出会い、体験それらができる社会教育の必要性を感じさせられる。

(竹田)